

広島大学の若手研究者に聞く

栗田梨津子さん(大学院総合科学研究科 助教)

少数派の視点から 多文化主義を考察

大学時代にオーストラリアに1年間留学したとき、自分はマイノリティー(少数派)の立場でした。アジア人へのバッシングが強かった時代で、疎外感を感じることもありました。そのことが、少数派の視点から、異なる民族の文化を等しく尊重する多文化主義を掲げるオーストラリアで、都市先住民のアイデンティティーを研究するきっかけになりました。

オーストラリアの先住民族の大半はアボリジニと呼ばれる人々です。大学院生のときに、アドレードの街で、約20カ月に及んで都市先住民・アボリジニの現地調査を行いました。アボリジニが通う学校に行つて聞き取りをしながら、最終的には彼らと一緒に生活をして、人間関係を構築していきました。

オーストラリアでは、多文化主義を採用した1970年代以降、それまで忌み嫌われていたアボリジニの文化が

研究テーマはオーストラリア・都市先住民のアイデンティティー

尊重されるようになりまし
た。ただ、政府が尊重してい
るのは、オーストラリア中央
部の砂漠地帯に住む、伝統的
なアボリジニの文化です。学
校教育でも、それを本質化さ
れたアボリジニ文化として教
えています。

一方で、都市に住む多くの
アボリジニは、早くから白人

め、都市先住民の側は、政府
が奨励する「正統な」先住民
文化を身に付け、同一性に基
づくアイデンティティーを主
張するようになりました。

さらに、白人のパートナー
も多い都市先住民は、オース
トラリア市民としてのアイデ
ンティティーも主張するよう
なっています。オーストラ

が起るようになってきまし
た。その権利を獲得するため
にはアボリジニ文化を持って
いることが大切ですし、白人
と一緒に権利を主張した方
が、交渉が優位に運びます。

都市先住民の多層的で流
動的なアイデンティティーの
操作は、私に次の研究テー
マを与えてくれました。現在、
先住民とスーダン難民の緊
張関係について研究に取り組
んでいます。1990年代以
降、オーストラリアでは多文
化主義の後退が叫ばれ、移民
排斥運動が起こるようにな
りました。特に有色人種への
風当たりは強くなってきました。
先住民と難民というマ
イノリティー同士が、連帯し
て抑圧に抵抗するとしたら、
どのような形の可能性がある
のか。掘り下げたい、と思っ
ています。

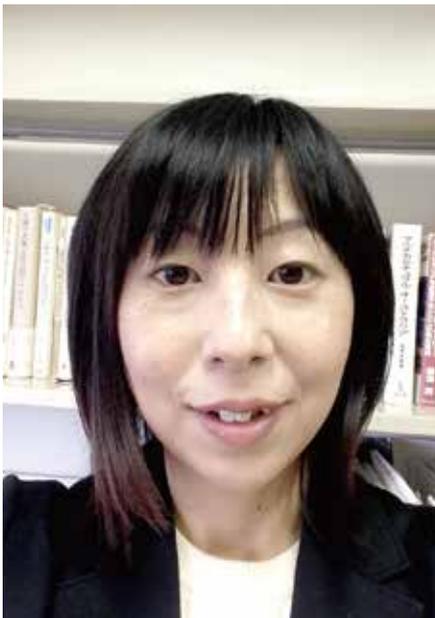
状況や目的でアイデンティティーを操作 日本の多文化共生のモデル提示が目標

の入植が始まり、主流社会の
人々によって、伝統の文化の
継承を阻まれました。このた

リアでは、近年、都市先住民の
間で白人に奪われた土地を
取り戻す土地返還請求運動

ら明らかになりました。
都市先住民は、「正統な」
先住民文化を身に付ける半

係を築き、先ほどの土地返還
請求運動で、非アボリジニを
巻き込んだ戦略をとっている



「最終的には日本の多文化共生のモデルを提示したい」と話す栗田さん

栗田梨津子(くりた りつこ)さんプロフィール

1997年、華陵高卒。2001年、京都橘女子大卒。03年、神戸大大学院総合人間科学研究科博士課程前期修了。11年、広島大大学院総合科学研究科博士課程後期修了。実践女子大短期大学部専任講師、埼玉県立大保健医療福祉学部非常勤講師など歴任。16年3月から現職。



アボリジニの人たちと。前列右端が栗田さん

最終的には、日本の多文化
共生の議論となるモデルを
提示できれば、と考えていま
す。今後、日本でも難民の受
け入れは必至です。オースト
ラリアでの知見を、日本での
異文化理解と社会が抱える
課題の解決に結び付けるこ
とが目標です。(聞き手・白川)

先住民と難民の 緊張関係を研究

ことも分かりました。